

## 所 報

一九八五年一月から二月までの一年間における専修大学社会科学研究所の諸活動を報告する。

### 一 機構および人事

#### (一) 所員総会

1 第四五回定例所員総会（一九八五年六月二日、神田校舎8C会議室）

議事 (1)栗木安延所員を議長に選出、(2)三輪芳郎所長挨拶、(3)新所員ならびに所外研究員委嘱の報告、(4)一九八四年度事業報告、会計監査報告——報告を承認、(5)一九八五年度事業計画案および予算案を原案通り承認決定。

2 第四六回定例所員総会（一九八五年二月一日、生田校舎第四会議室）

議事 (1)栗木安延所員・加藤佑治所員を議長に選出、(2)三輪芳郎所長挨拶、(3)新所員委嘱の報告、(4)一九八五年度事業経過報告および会計経過報告、(5)一九八六年度事業計画案および要求予算案を原案通り承認決定。

#### (二) 運営委員会および事務局の構成

一九八五年度の運営委員会、事務局の構成は次の通り。

運営委員会——三輪芳郎所長、佐藤博所員（総合理論部長）、宇都栄子所員（現状部長）、加藤幸三郎所員（歴史部長）、望月清司経済学部長、内田弘前事務局長、福島新吾所員、儀我壮一郎所員、田路健一所員、吉岡恒明所員、平川東亜事務局長。会計監査——吉岡健次所員。

事務局——〈事務局長・社研プロジェクト兼担〉平川東亜、〈研究会担当〉池本正純、沢野徹、新藤宗幸、〈編集担当〉矢吹満男、上村達男、田口冬樹、〈文献資料担当〉作間逸雄、福島義和、〈パソコン担当〉平井俊顕、〈財政担当〉泉武夫、黒川保美、以上一二所員。

#### (三) 所員・所外研究員の移動

高橋七五三（経）、牧村四郎（商）の両氏は、三月三十一日をもって本学を退職されたので所員の委嘱を解き運営委員会（四月二十七日）の議を経て所外研究員に委嘱された。

飯田謙一（商）、栄沢幸一（法）、太田順三（文）、鎌田浩（法）、小藤康夫（商）、桜井通晴（営）、高橋祐吉（経）、松浦利明（経）、松田修（経）の九氏は四月二十七日の運営委員会の議を経て、四月一日付で、所員に委嘱された。

赤羽新太郎（商）、岩淵孝（経）、川村晃正（商）、木幡文

徳(法)の四氏は、六月八日の運営委員会の議を経て、また奥村輝夫氏(商)は一月三〇日の運営委員会の議を経て所員に委嘱された。

以上により第四六回定例所員総会時における所員は二二一名、所外研究員は二三名である。

## 二 研究活動

### (一) 定例研究会

- (1)五月二五日(土) 神田社研  
シンポジウム・テーマ「現代文明の思想的再検討」  
姜尚中氏(明治学院大)「マックス・ウェーバーと現代」  
谷喬夫氏(日本福祉大)「フランクフルト学派の文明論」  
司会者 小沼堅司所員
- (2)六月二八日(火) 生田社研  
森宏所員「価格メカニズムⅡ市場メカニズムⅢ競争メカニズムとは何だろう——鶴田俊正、叶芳和氏の所論をめぐって」
- (3)七月一三日(土) 神田社研  
原伸子氏(法政大)・石塚良次氏(本学非常勤講師)「内田弘著『中期マルクスの経済学批判』をめぐって」
- (4)一〇月一日(火) 生田社研  
桜井通晴所員「最近の工場自動化と経営管理」

### (二) 社研プロジェクト

#### (1) プロジェクト運営会議

- (i)一〇月五日(土) 社研神田分室  
ア 大西勝明所員をプロジェクト研究担当責任者とする。

イ 原則として毎月第一土曜日にプロジェクト研究会を開く。

ウ プロジェクト研究会および工場見学は全所員に公開する。

エ 3年目に研究成果の公表をすべく努力する。

#### (2) 社研プロジェクト研究会

- (i)一〇月五日(土) 社研神田分室  
野口宏氏(NTT)「情報とコンピューターの基本的問題」
  - (ii)一一月二日(土) 社研神田分室  
唐木幸比古氏(商学部)「情報化社会における大型計算機の役割」
  - (iii)一二月七日(土) 社研神田分室  
下田博次氏(ジャーナリスト)「ME化、情報化の進展」
- #### (3) 工場見学
- (iv)一二月二一日(水)  
日産自動車(株) 座間工場見学

(三) 特別研究会・交流会

(1)五月二十九日(水) 生田社研

金徳泉氏「中国の社会科学情報事業の現状と課題」

(中国社会科学院・文献情報センター第二研究室副主任)

(2)六月二十六日(水)

朝鮮民主主義人民共和国社会科学者代表团(団長キム・チュ  
ルミョン朝鮮社会科学者協会・第一副委員長)以下三名と交  
流会

(四) グループ研究助成

一九八五年度は次の八件(助成A―七件、助成B―一件)  
が助成された。なお研究助成Aに対しては、グループのメン  
バーのうち、一人以上の所員が当グループが定めた共通テー  
マに関連する個別テーマで、本研究所が指定もしくは承認し  
た公表誌に研究成果を公表する義務が課されている。

助成A

①継続「企業内教育および労働組合教育の歴史と現状」

(一九八三年度発足、宇都所員以下五所員)

②継続「高度産業社会における国家と経済」(一九八四年度  
発足、鶴田所員以下二二所員)

③継続「明治国家史の研究」(一九八四年度発足、隅野所員  
以下二二所員)

報 所

④新規「労働組合と地域社会」(栗木、池田、加藤(佑)、儀  
我、西岡、溝田、高橋(祐)の七所員)

⑤新規「国民経済計算の諸問題」(田路、正村、鶴田、松田、  
黒川、小藤、作間の七所員)

⑥新規「資本論」と現代資本主義」(沢野、内田、泉、酒  
井、矢吹、田口、大西、溝田の八所員)

⑦新規「日本の企業金融の最近の変化」(熊野、麻島、池本、  
伊東、上村、平川の六所員)

助成B

①「オレンジ輸入の実態と輸入自由化の経済予測」(森、鈴  
木の二所員)

(五) 個人研究助成

一九八五年度は下記の四件を助成した。なおこの助成に  
は、原則として交付年度より起算して三年以内に本研究所が  
指定もしくは承認した公表誌にその研究成果を公表する義務  
が課されている。

①須田所員「金融の国際化についての研究」

②佐藤(恭)所員「極東国際軍事裁判と日英の対応、一九四  
六―一九四八年」

③原田所員「税制改革の潮流」

④矢吹所員「再生産表式論と恐慌」

(六) 『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

二五八号(一月号) 酒井所員「アダム・スミスの分業論と価値論」

二五九号(二月号) 社研夏季合宿特集号「マルクスと現代社会科学」

二六〇号(三月号) 高橋七五三所員「(最終講義)ポパーの法論と経済学」

二六一号(四月号) 池田所員「アルゼンティンの鉄道史」

二六二号(五月号) 金徳泉氏「中国の社会科学情報事業の現状と課題」・宮坂所員「中国法制事情——中国の法をどのようにとらえるかということについての一つの見解——」

二六三号(六月号) 森所員「価格メカニズムⅡ市場メカニズムⅡ競争原理」とは何だろうか——鶴田俊正、叶芳和氏等の所論をめぐって」

二六四号(七月号) キム・チョルミョン教授「朝鮮民主主義人民共和国における社会主義建設の現状」・池田所員「紹介」女子炭礦労働者」

二六五号(八月号) 高橋(七) 所外研究員「私の70年——その知的遍歴」

二六六号(九月号) 内田所員「『経済学批判要綱』における実体規定」

二六七号(一〇月号) 平井所員「『一般理論』の生誕(上)」

——生誕前夜——

二六八号(十一月号) 石沢篤郎氏「コンピュータ科学と社会科学」・高橋(祐) 所員「高齢化社会におけるME技術革新の展開をめぐる諸問題」

二六九号(十二月号) 鈴木所員「アメリカ産業構造の研究」  
(平川東亜記)